

お取引先さま 各位

## カカオ・チョコレート週刊ニュース 86号

2014/03/10 発行  
株式会社 立花商店  
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

### 1、市況の動き：高値圏を引き続き維持。先週比で両市場は上昇。

① 最高：5月 LDN 市場£ 1,856 /3月 NY 市場\$2,981 (3/7) 先週比 **LDN +£ 12 / NY +\$24**

② 最低：5月 LDN 市場£ 1,825 /3月 NY 市場\$2,918 (3/3) 先週比 **LDN +£ 4 / NY -\$3**

週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£ 31 (傾向↑) / NY 市場\$63 (傾向↑)

週内建玉推移：LDN 市場 295,747 枚(2/28 終了時)⇒282,593 枚 (3/7 終了時) **-13,154 枚**

NY 市場 212,876 枚(2/28 終了時)⇒210,943 枚 (3/7 終了時) **-1,933 枚**

#### 【3月3日(月)】いずれも反落

いずれも反落。コートジボワールでカカオ豆の生育に理想的な状態が続いており、ミッドクロップの収穫が押し上げられるとの観測に圧迫された。ロンドン市場の5月きりは19ポンド(1.0%)安の**1825ポンド**、ニューヨーク市場の5月きりは39ドル(1.3%)安の**2918ドル**でそれぞれ引けた。

#### 【3月4日(火)】いずれも反発

いずれも反発した。ニューヨーク市場の5月きりは38ドル(1.3%)高の2956ドルで終了した。ロンドン市場の5月きりは19ポンド(1%)高の1844ポンドで引けた。

#### 【3月5日(水)】両市場とも続伸

両市場ともに続伸。ニューヨーク市場の5月きりは14ドル(0.5%)高の2970ドルで終了した。堅調な需要や世界的に供給不足になるとの観測が背景。ロンドン市場の5月きりは5ポンド(0.3%)高の1849ポンドで引けた。

#### 【3月6日(木)】両市場とも反落両市場ともに反落。

ニューヨーク市場の5月きりは9ドル(0.3%)安の2961ドルで終了。ロンドンに拠点のあるディーラーは「下落基調にあるが短期的なものだ。業者筋はポジションをカバーする機会を捉えようと大幅下落に注目している」と述べた。ロンドン市場の5月きりは4ポンド(0.2%)安の1845ポンドで引けた。

### 【3月7日(金)】両市場とも反発＝供給不足見通し

いずれも反発。カカオ豆の需要増を背景に供給が不足するとの見通しが相場を押し上げた。ニューヨーク市場の5月きりは20ドル(0.7%)高の**2981ドル**、ロンドン市場の5月きりは11ポンド(0.6%)高の**1856ポンド**で、それぞれ取引を終了した。

### 2、アジア：バターレシオは需要増より堅調に推移、パウダー価格は下落(3/7)

チョコレート原料として重要であるココアバターのプレミアム(ココアバターレシオともいう。)は今週、堅調に推移したがその一方でココアパウダー価格は下落した。カカオの磨砕業者が在庫を減らそうとしたことが原因である。

バレンタインデーやイースターに向けての今年前半のココアバターの需要が、ココアバターレシオの上昇に拍車をかけている。

磨砕業者はココアバターレシオを先週と変わらず、2.42から2.45で出している。

「一部の業者はココアバターを買いに動いているが、それは主にチョコレート製造メーカーであるとしている。もしも磨砕業者が直接メーカーに販売することができれば、磨砕業者はバター価格を少し下げることができる。」という。また「しかし、ココアバターの現状は厳しい。需要は一貫してここ最近と変わらないが、決して伸びていない。いまだに在庫が多く残っている。」という。

また、他のトレーダーも「ココアバターの需要は主にスポットベースの買付け希望が多く、堅調で来週にかけても2.43~2.45レンジで推移するとみているが、ココアパウダーの販売は動きがなさそうだ」と語っている。

ココアパウダーの価格は、先週の\$2,200ドルから今週は\$1800~2,000/トンとなっている。

### 3、2月インドネシアスラウェシ島 カカオ豆輸出量が4%減少(3/4)

インドネシアのカカオ豆の主産地であるスラウェシ島からの、2月度のカカオ豆輸出量は昨年の7,790.50トンから41%減少し、4,622.63トンとなった。それでも1月の出荷量の6倍まで急上昇した。

インドネシア農家は気候変動によって生じるカカオ豆の病気が増える中、病気を防ごうと奮闘している。しかしインドネシアのココア協会は、2014年期的インドネシア全体のカカオ豆生産高は2006年以來の最も少ない42万5,000トンになると見込んでいる。

生産高が減少しているにも関わらず、2014年期的インドネシアのカカオ豆の輸出量は依然として12万5,000トンを保つ見込みである。インドネシア国内でのカカオの圧砕業者が力を強めている中で、インドネシアのカカオ豆の輸入に対する需要が増々高まる状況だ。

#### 《スラウェシ島からのカカオ豆輸出数量統計》

月	輸出量(トン)	2013年期比(%)
2月	4,622.63	-41
1月	760.00	-91
12月	5,912.97	-21
11月	6,038.32	-36
10月	5,274.95	-8

9 月	10,408.69	-40
8 月	9,063.55	+109
7 月	8,671.88	+2
6 月	7,773.00	+57
5 月	5,654.00	-21
4 月	5,781.25	-27
3 月	8,662.08	+147
2 月	7,790.50	-2
1 月	8,349.38	-6

#### 4、コートジボワール：天候の好条件がミッドクロップの成長を促す(3/4)

コートジの農家とアナリストは「雨と高温の好条件が重なったことで、コートジのカカオ豆主産地では4月～9月のミッドクロップのカカオ豆のサイズと品質が向上するだろう。」と述べた。

収穫は今月後半から始まり、5月～6月に向かうにつれて加速していく。しかし一方で Daloa の中西部の San Pedro の海岸地区では依然として、カカオの生育状態について懸念を示している。

Soubre 西部の農家は「我々は恵まれている。この2か月は天候が良い。昨年に比べ収穫量が大きく、今年はたくさんのカカオを販売することができる。」と述べた。

アナリストはこの1か月で31ミリの降雨があったと報告した。世界の主要なカカオ生産国は乾季にあり、それは11月中旬から3月まで続く。乾季の特徴は一時的に大量の雨が降ることにある。農家は「1月～2月下旬まで、週に1回の雨が必要だ。それによりカカオ豆が育ち、実が木から落ちることを防ぐのだ。」という。そして彼らはまた、53ミリの降雨が予測されている Gagnoa 西部のミッドクロップの生産高に対しても楽観視している。この農家によると、もし4月の終わりまでずっと定期的に雨が降れば、ミッドクロップは少なくともその次の年の4月まで続くという。Duekoue や Meagui 西部、Aboisso, Divo, Tiassale, Agboville 南部においてもカカオ豆が良く育っていることが報告されている。

しかしコートジのカカオ豆生産の1/4を担う Daloa では雨が降っていない。農家は「我々はカカオ収穫について心配している。カカオの木はほとんど実をつけていない。乾季の後に雨が必要だ。」という。

また、San Pedro の海岸地区において、1か月以上続いた乾季の後に軽く雨が降った。しかし農家は、雨が少し降ったが何も良い影響がないと述べた。

#### 5、インドネシア：カカオ豆生産高は過去8年で最低、輸入量が3倍になる見込み(3/4)

インドネシア・カカオ協会は、需要の伸びとインドネシア国内のカカオ生産の不調によって、カカオ豆の輸入量が300%伸び15万トンにも昇ると述べた。協会の代表である Zulhefi Sikumbang 氏は2014年のカカオ豆の生産は前年対比6%減少し42万5,000トンになると述べた。

彼は「農家は気候変動によって生じるカカオの病気を防ごうと奮闘しているものの、この数字は2006年以来一番低い。」という。インドネシアはコートジ、ガーナに次いで世界第3位のカカオ生産国である。しかし同国内でのカカオ豆の磨砕業者からの需要を満たすために、2013年は4万トンのカカオ豆を輸入

した。

インドネシア政府が 2010 年 4 月にカカオ豆の輸出税を課す政策を開始したことにより、同国のカカオ豆磨砕産業は一気に成長することとなった。カーギルやバリーカレポーなどの世界規模の企業がインドネシア国内での磨砕工場への投資をするようになり、輸出税が課させるようになってから、これまででインドネシアでは 11 社の新しいカカオ豆磨砕工場が設立されている。

輸出に関しては昨年の 12 万 5,000 トンに近い数字が見込まれているが、一方でインドネシア国内の磨砕工場全体の加工可能製造数量は年間 60 万トンに達している。

インドネシア・カカオ協会の長官である Sindra 氏は、国内のカカオ生産高の減少は単位当たり生産高が低いことに原因があるとした。カカオ農園の 170 万ヘクタールの中で、30%程度の農園しか高いカカオ生産性を達成していない。

またもう一つの脅威は、カカオ農園がパームオイル農園にとって代わることで、中央スラウェシと西部スラウェシはこれまでカカオ農園が他の用途の農園に転換された主要な地域だ。

Sindra 氏は「このままカカオ豆の生産数量が少ないままでは非常に危険だ。もし、この状況が続けば、2015年にはインドネシア産カカオ豆が国内のカカオ加工業にのみ使用され輸出はされない状況になる。」と述べた。インドネシアの農業省の Gamal 氏は「政府は農家のカカオの発酵技術の促進を支援していく。現在政府側で農家が発酵したカカオ豆を作るような規則を策定中だ。発酵されたカカオ豆の価格を販売することでカカオ豆の販売価格を上げることが出来るだろう。また、政府は仲介業者を介さずに、直接カカオを買い付ける方法を策定中である」といった。